

Native Chinese Speakers' Use of *-Tamama* Sentences

MURAMATSU Yukiko

Abstract

This paper examines the use of Japanese *-tamama* sentences by native Chinese speakers based on four Japanese learners' corpora. Examination of their correct and incorrect usages of *-tamama* found that not only were there few errors with *-tamama* extracted, but also few instances of correct usages. This result shows that *-tamama* may be used rarely by Chinese speakers.

In addition, this paper discusses the meaning and usage of *-tamama* in order that Japanese learners may use it appropriately. According to previous studies, *-tamama* has a pragmatic constraint based on the relationship between two actions in a sentence; however, this study clarifies that it also has a contextual constraint.

中国語母語話者の付帯状況を表す「たまま」の使用実態 —不使用の可能性について—

村 松 由起子

1. はじめに

「ながら」「て」「たまま」は日本語の付帯状況¹を表す類義表現として扱われている（三宅 1995、新版日本語教育事典 2005）。本研究では、日本語の付帯状況を表す形式の一つである「たまま」について、学習者コーパスにて中国語を母語とする日本語学習者の使用実態を観察し、正用、誤用を分析した。その結果、付帯状況を表す「たまま」については、誤用も正用も少なく、不使用が生じている可能性のあることが示唆されたことから、日本語学習者²が「たまま」を適切に使用できるように、「たまま」の意味・用法および使用上の制約を考察することにした。考察の結果、先行研究で主張されている付帯状況を表す「たまま」の語用論的な制約について、先行研究の主張の不十分な点を明らかにし、不備を補うことができた。

2. 付帯状況を表す「たまま」

「たまま」は「まま」形式の一用法である。考察に入る前に、まず、「まま」の意味・用法のうち、本研究ではどのような「まま」を扱うのかを述べておく。

「動詞＋「まま」」には次の a～f の意味・用法³がある。

- a. めがねをかけたまま、お風呂に入った。
- b. 髪を乾かさないうまま、寝た。
- c. 家を出たまま、帰ってこない。

¹ 付帯状況について、益岡・田窪（1992：194）は「付帯状況を表す副詞節は、ある動作に付随する状態や、ある動作と同時並行的に行われている付随的な動作を表す」としている。

² 本研究では、使用実態については中国語母語話者の観察を行ったが、「たまま」の考察については、学習者の母語を考慮した視点からは行っていないため「日本語学習者」としておく。

³ 「まま」の意味・用法については谷部（1991）が詳しい。

- d. すすめられるまま、ソファーに座った。
- e. 気の向くまま好きなことをして過ごした。
- f. かばんは玄関に置いたままだ。

このうち、a、b が付帯状況の意味・用法であるが、本研究では a の「たまま」のみを扱い、b の「ないまま」については扱わないことにする。

c は「家を出たきり」⁴、d は「状況に従ってその通りに」、e は「成り行きに任せて」という意味であり、付帯状況とはならない。f は「たまま」が従属節の用法ではないため、付帯状況とはならない。

したがって、本研究では a の付帯状況として成立する「たまま」を考察の対象として扱っていく。

3. 中国語母語話者の付帯状況を表す「たまま」の使用実態

3.1 観察の方法

本研究では、まず、学習者コーパスを使用して、中国語を母語とする日本語学習者の付帯状況を表す「たまま」の使用実態を観察した。今回観察に用いたコーパスは、「LARP at SCU 第2版」(以下 LARP)、「作文対訳データベース」(以下対訳 DB)、「JCK 作文コーパス」(以下 JCK)、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(以下 I-JAS) の4種である。観察は、すべての用例を目視にて観察し、付帯状況を表す「たまま」の正用、誤用を抽出する方法で行った。また、今回の判定では、文中に「たまま」以外の部分に誤用があっても、「たまま」の部分に誤りがなければ正用として扱った。

3.2 観察結果

以下、コーパスごとに、コーパスの特徴と使用実態の観察結果を述べる。なお、用例に付してある下線は本筆者による。

一つめの LARP は、台湾の東呉大学によって作成された縦断的な作文コーパスである。収録されている作文データは、台湾の大学生 37 名が 33 のテーマで書いた作文であり、テーマごとに、作文 1、フォローアップインタビュー後に書いた作文 2、フォローアップインタビューの 3 種類のデータが収録されている。今回の観察では、最初に書かれた作文 1 の 991 篇の作文データ 14,798 文を使用した。

表 1 は LARP の観察結果である。観察の結果、LARP では付帯状況を表す「たまま」については、正用は 2 件、誤用は 1 件しか抽出できず、正用も誤用も少ないことが確認できた。

⁴ 益岡・田窪 (1992:194) は「動詞タ形+「きり」」の形式を付帯状況を表す表現として扱っているが、三宅 (1995:445) は「きり」の意味の「たまま」は付帯状況とはみなしていない。本研究でも「きり」の意味の「たまま」は付帯状況とはみなさないことにする。

表 1 LARP における「たまま」の使用実態

	正用数	誤用数
付帯状況以外の「たまま」	4	7
付帯状況の「たまま」	2	1

付帯状況を表す「たまま」の誤用として扱ったのは次の(1)の1件のみであったが、(1)は「鳴らしたまま」を使用すべきところに「鳴られたまま」を使用しているので、「たまま」の誤用というよりも受け身の過剰使用の問題であろう。

- (1) 例えば、美術館や音楽館などの建物の中で、携帯の音を消さないで、鳴られたままと失礼な行為をしている人はいつも目に入っている。(学習者 29 携帯電話)

今回の観察では、付帯状況を表す「たまま」の誤用としては扱わなかったが、次の(2)(3)のように「なかつたまま」を使用した誤用もあった。(2)の「習っていなかったまま」は「習わないまま」、(3)の「分からなかったまま」は「わからないまま」を使用すべき誤用である。

- (2) 中学校を卒業したばかりで、日本語の何でも習っていなかったまま、日本へ一カ月の短期コスに参加してきました。(学習者 24 私と日本語の出会い)
- (3) だが、興味がない結果、社会の状況や国際関係など、何も分からなかったまま、選挙しに行ったら、どのような人が選ばれたか分からない。(学習者 27 選挙)

二つめの対訳 DB は、国立国語研究所が作成した日本語学習者と日本語母語話者の作文データベースで、横断的なデータが収録されている。観察した時点では、2017年までの1,754件の作文データが Web 上で公開されていた。今回の観察では中国語母語話者が書いた「あなたの国の行事について」44篇と「たばこについてのあなたの意見」34篇の作文データ 1,723文を使用した。

表 2 は対訳 DB の観察結果である。対訳 DB では付帯状況を表す「たまま」については、正用も誤用も抽出できず、使用されていないことが確認できた。

表 2 対訳 DB における「たまま」の使用実態

	正用数	誤用数
付帯状況以外の「たまま」	0	1
付帯状況の「たまま」	0	0

付帯状況としての誤用ではないが、「たまま」の誤用としては(4)が抽出された。

(4) 最後、客さんを連れに家の玄関に入って行まま。(cn080)

(4)は「たまま」の部分だけで考えると、「入って行ったままだ」とすべき誤用であろう。

さらに、もう1件、「たまま」の誤用には該当しないので表2の誤用数には含めていないが、「ま
ま」の誤用として(5)を抽出した。

(5) 一人でたばこを吸ってほかの人を影響しないとはままだ。(cn071)

三つめのJCKは科学研究費補助金(2013年度～2015年度)により新城他によって作られたコーパスであり、コーパスには、日本語母語話者、中国語母語話者、韓国語母語話者が書いた説明文、意見文、歴史文の3タイプの作文が収録されている。今回の観察では、JLPTのN1合格者および合格相当の力を持っていることが確認された中国在住の中国人大学生の作文データ60篇を使用した。

表3はJCKの観察結果である。JCKでも付帯状況の「たまま」については誤用がなく、正用1件のみを抽出した。なお、JCKでは「たまま」は正用1件のみであったが、「ないまま」については「知らないまま」の正用を2件抽出した。

表3 JCKにおける「たまま」の使用実態

	正用数	誤用数
付帯状況以外の「たまま」	0	0
付帯状況の「たまま」	1	0

四つめのI-JASは、国立国語研究所が公開しているコーパスで、異なった12言語を母語とする日本語学習者の話し言葉および書き言葉のデータを横断的に調査・収集している。今回は、中国語母語話者のデータのうち、ストーリーライティング1、2を使用して「たまま」の正用、誤用を観察した。その結果、付帯状況を表す「たまま」としては、正用2件、誤用1件を抽出した。表4はI-JASの観察結果である。

表4 I-JASにおける「たまま」の使用実態

	正用数	誤用数
付帯状況以外の「たまま」	6	3
付帯状況の「たまま」	2	1

付帯状況を表す「たまま」の誤用としては、以下の (6) が観察された。

- (6) 二人は手を繋いで、嬉しくて歩きます。場所について、バスケットを下ろしたまま、ハチさんが中に飛び出した。(CCM20)

(6) は「たまま」の過剰使用である。(6) は「たまま」節と主節の主語が異なっており、本来「と」を使用して「バスケットを下ろすと」とすべきところに「たまま」を使用している誤用である。

また、今回の観察では付帯状況の「たまま」の誤用としては扱っていないが、I-JAS においても、LARP で見られた「なかったまま」を使用している誤用 (7) (8) が抽出された。

- (7) ケンとマリはバスケットの中にいぬが入ったことを知らなかったまま、楽しくピクニックの場所に行きました。(CCT24)
- (8) ケンとマリは全く気付かなかったまま、犬の入っているバスケットを持って家を出てきました。(CCT19)

(7) (8) の「知らなかったまま」「気付かなかったまま」は「知らないまま」「気付かないまま」を使用すべき誤用である。これらは、上記 (2) (3) 同様、「ないまま」を「なかったまま」にしている誤用である。

3. 3 使用実態のまとめ

今回の4つの学習者コーパスを用いて中国語母語話者の使用実態を観察した結果から、付帯状況を表す「たまま」については正用も誤用も少なく、使用数自体も少ないことが確認できた。付帯状況を表す「たまま」は日常的に使用されている形式であること⁵、日本語教育でも一般的に初級または初中級レベルで扱われる形式であること⁶から、ある程度の使用は見込まれる形式であるが、今回の中国語母語話者のデータ観察では、使用数そのものが非常に少ないことがわかった。誤用が少ないものの、使用数自体も少ないことから、不使用が生じている可能性も考えられ、習得できているとは言い難いことが示唆されたと考えられる。迫田(2002: 26-27)は「誤用だけを対象にして分析すると、表面には出ていない学習者の問題点が明らかにならない」「誤用が生じていないからといって正しく使えるとは限らない」と述べているが、付帯状況の「たまま」がこのケースに該当している可能性もあろう。

⁵ 中俣(2014)によると、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」での「たまま」の出現数は9,883となっており、この出現数は「そうだ(伝聞)」6,323、「たほうがいい」8,383よりも多いことから、「たまま」は実際にある程度使用されていることがわかる。

⁶ 『みんなの日本語』の場合、初級レベルの『みんなの日本語 I, II』では扱われておらず、中級レベルの『みんなの日本語中級 I』の第8課で扱われている。『標準日本語』では初級下の第42課で扱われている。

また、全体的に「たまま」の使用数が少ない中で、「ないまま」を「なかったまま」にしてしまう誤用が目立つということは、「ないまま」の形が使えていない可能性もある。付帯状況を表す「たまま」「ないまま」を教える際には、「まま」の前接部分に焦点をあてて丁寧に導入することが望ましいであろう。

次の節では、日本語学習者が付帯状況を表す「たまま」を適切に使用できるように、先行研究で言及されている付帯状況を表す「たまま」の意味・用法および成立条件を確認し、不備がないかを考察していく。

4. 付帯状況を表す「たまま」の成立条件

4. 1 先行研究と本研究で扱う問題

付帯状況には、同一主体による2つの動作の同時並行的な進行を表す意味・用法と、動作・変化の結果の維持または存続を表す意味・用法がある。本研究では前者については「同時進行」、後者については「結果存続」を用いていくことにする。「たまま」は基本的に「結果存続」の付帯状況として成立する。

付帯状況を表す「たまま」の先行研究としては、三宅（1995）、庵他（2000）、日本語記述文法研究会（2008）などがある。

ここでは、三宅（1995）が主張している付帯状況を表す「たまま」の成立条件について取り上げておく。三宅（1995）は付帯状況を表す形式「ながら」「て」「たまま」の成立条件を考察した研究であり、森山（1988）の時定項分析「過程」「維持」「結果持続」を用いて考察している。三宅（1995）は「たまま」の成立条件については以下のように主張している。

変化があり、その変化の結果が持続的であることを表す動詞、即ち「維持」あるいは「結果持続」を持つ動詞の場合、付帯状況として成立する。ただし、運用論的な制約がある。変化がないものや、変化があっても一時的なもの（変化の結果が永続的なもの）は不成立である。（p.450）

三宅（1995）の用例から、「維持」（「過程／維持」を含む）の用例と、「結果持続」（「過程／結果持続」を含む）の用例を各1例ずつ示しておく。（9）は「維持」、（10）は「結果持続」の用例である。なお、本研究では「維持」「結果持続」を合わせて「結果存続」としている。

- （9） 黙ったまま、小さく頭を振った。（三宅 1995：446）
 （10） ボタンを留めたまま、服を脱いだ。（三宅 1995：446）

付帯状況を表す「たまま」は、主に結果存続の意味・用法で成立するが、継続動詞の主体動作動詞・均質型（日本語記述文法研究会 2007：108）の動詞の中には、同時進行を表す意味・用法で成立するものもある。次の（11）（12）は結果存続、（13）は「笑う」という動作が行われている

る最中であるため、同時進行である。(13) の場合、「ながら」に置き換えて「笑いながら」とすることも可能である。

- (11) 満席だったので立ったまま食べた。(作例)
- (12) 窓を開けたまま寝た。(作例)
- (13) 笑ったままうなずいた。(作例)

また、三宅(1995:445)は「たまま」には運用論的な制約があるとして、「通常は起こらない、あるいはふさわしくないと見なされる状況を含意する」と言及している。(14)(15)は三宅(1995)の用例⁷である。「パジャマを着たまま外に出た」「スーツを着たまま寝た」は言えるが、「パジャマを着たまま寝た」「スーツを着たまま外に出た」は言えないとしている。

- (14) パジャマを着たまま、{外に出た／#寝た}。(三宅 1995 : 446)
- (15) スーツを着たまま、{ #外に出た／寝た}。(三宅 1995 : 446)

「たまま」の制約については、庵他(2000)、日本記述文法研究会(2008)にも同様の言及があり、庵他(2000:195)では「そぐわないもの」、日本語記述文法研究会(2008:250)では「普通ではない」という表現が用いられている。

しかし、実際に付帯状況の「たまま」が使われている事例を観察すると、「通常は起こらない、あるいはふさわしくないと見なされる状況を含意する」とまでは言えないような用例も見つかる。以下では、この付帯状況を表す「たまま」の語用論的な制約に焦点をあてて考察していきたい。

4. 2 考察

まず、「たまま」の語用論的な制約について、もう少し用例を見ておく。

- (16) a, bは庵他(2000)の用例である。
 - (16) a. ネクタイを締めたまま寝てしまった。
 - b. ?ネクタイを締めたまま出かけた。(庵他 2000 : 195)

庵他(2000:195)は「P たまま Q」は「[P た]という状態が動作 Q にそぐわないものである場合が普通」だとし、(16) b が不自然なのは、「[ネクタイを締めた]状態と「出かける」という動作が当たり前の組合せであるため」と説明している。

このように、先行研究では、「たまま」節の動作と主節の動作の組合せの視点から説明されて

⁷ 三宅はこれらの用例を沢田奈保子(1990)「接続形式と含意—類義表現の使い分けの仕組みを追及して—」(未公刊修士論文大阪大学)より引用している。

いるが、実際に使われている事例を観察すると、「たまま」節の動作と主節の動作の組合せとしてはそぐわないとまでは言えないような用例も見つかる。次の(17)(18)は丹保(2009)がマイナスイメージを伴わない「たまま」の用例として示している事例である。なお、下線は本筆者が付し直したものである。

- (17) 技師や技手たちは、設計図に向かったたままで、よそ見をする者はいなかった。〈孤高の人〉(丹保2009:44)
- (18) 雪雲の底の平面は、鉛色をした海と並行したたまま遠のいて行って、水平線との間に、くっきりと一条、青空を残して終わっていた。〈孤高の人〉(丹保2009:46)

丹保(2009)が指摘しているように、これらの用例ではふさわしくないといったマイナスのイメージは感じられない。

このことから、日本語教育として付帯状況を表す「たまま」を教えるという観点から見た場合、もう少し厳密に「たまま」の制約を考察しておく必要があるのではないかと考え、本研究では、この「たまま」の制約について考察してみることにした。なお、考察には「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」にて収集した用例を使用する。

BCCWJでは(19)(20)の用例が見つかった。

- (19) 彼はポケットに手を入れたたまま、肩をすくめてみせた。(おひさまのブランケット)
- (20) 蔭山はうなだれたまま唇を噛んでいた。(鉄道員)

(19)の「ポケットに手を入れたまま」と「肩をすくめて見せる」の組合せも、(20)の「うなだれたまま」と「唇を噛んでいた」の組合せも、「たまま」の前項部分と後項部分の組合せ自体には、「ふさわしくない」「そぐわない」というニュアンスは感じられない。したがって、先行研究の「たまま」節の動作と主節の動作が「そぐわない」「ふさわしくない」組み合わせであるという説明では、(19)(20)のようなケースは説明できないであろう。

しかし、「たまま」節と主節の組合せではなく、文全体に視点を置いた場合、「ポケットに手を入れたまま、肩をすくめた」や「うなだれたまま唇を噛んでいた」という文全体からは、普通の状況ではないというニュアンスが感じ取れる。

そこで、もう少し文脈を見てみたい。

- (21) 周太郎に続いて靴をはきながら、美衣子は咲坂を振り返る。小さく手を振ると、彼はポケットに手を入れたたまま、肩をすくめて見せた。美恵子は、さっき咲坂が言いかけたことを最後まで聞いておくんだと少し後悔した。(おひさまのブランケット)
- (22) 「どうしたんだよ。何とか言えよ。みんな食べちゃって、もう食うものがないんだろう。

腹がへって、悪態もつけないんだろう」蔭山はうなだれたまま唇を噛んでいた。(鉄道員)

(21) では「小さく手を振った」のは美衣子であり、「美衣子が手を振っているのに、彼はポケットに手を入れたまま肩をすくめた」というそぐわない状況が述べられている。(22) でも、「何とか言えよと言われているのになだれたまま唇を噛んだ」というそぐわない状況が述べられている。これらの用例から、「たまま」節と主節の組合せではそぐわないというニュアンスが感じられない場合でも、場面状況的な視点から見た場合には、ふさわしくない行為になっていると言えることがわかる。

したがって、付帯状況を表す「たまま」の制約について、先行研究では「たまま」節と主節の動作の組み合わせの視点からのみ言及されているが、本研究では、動作の組合せに限らず、場面状況や文脈から「通常は起こらない、あるいはふさわしくないと見なされる状況であること」が含意されていれば成立する、としたほうが適切だと考える。

5. まとめ

本研究での考察から、以下の2点が明らかになった。

1. 中国語母語話者の付帯状況を表す「たまま」の使用実態を4つの学習者コーパスにて確認したところ、正用も誤用も少なく、使用数自体が少なかったことから、不使用が生じている可能性があることが示唆された。
2. 付帯状況を表す「たまま」の語用論的な制約について、先行研究では、「たまま」節の動作と主節の動作の組合せの観点から、「通常は起こらない、あるいはふさわしくないと見なされる状況を含意する」などと指摘されているが、本研究の考察により、「たまま」節と主節の動作の直接的な組み合わせに限らず、場面状況や文脈から「通常は起こらない、あるいはふさわしくないと見なされる状況」が含意されていれば成立することが明らかになった。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 迫田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
- 丹保健一 (2009) 「～たまま」の意味用法—マイナスイメージの出どころをめぐる—」三重大学教育学部研究紀要 60, pp.41-52
- 中俣尚己 (2014) 『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会 (2008) 『現代日本語文法 6』くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法』くろしお出版
- 三宅知宏 (1995) 「～ナガラと～タママと～テー付帯状況の表現—」『日本語類義表現の文法 (下)』 pp.441-450, くろしお出版
- 森山卓郎 (1988) 『日本語動詞述語文の研究』明治書院
- 谷部弘子 (1991) 「副詞的修飾成分「～まま」の意味と用法—話し手の表現意図との関係において—」東京学芸大学紀要 2 部門 42, pp.71-78

用例出典

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ) 国立国語研究所

本研究で使用了した学習者コーパス

1. 台湾東呉大学日本語文学系による台湾国科会專題研究計畫「台湾日文系学生日語習得縦断式研究（代表者 陳淑娟）」の成果 LARP at SCU コーパス第2版（2004年～2011年）」
2. 「作文対訳データベース」（2009年改訂）国立国語研究所
3. 科学研究費補助金「テキストの結束性を重視した母語別作文コーパスの作成と分析」（2013年度～2015年度基盤研究（C），研究代表者：金井勇人）により制作された「JCK作文コーパス」
4. 「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」（I-JAS）（2020年3月完成）国立国語研究所

